

学校だより

令和6年7月1日



# いちよう

目指す学校像

生徒一人一人の力が伸びる学校

新座市立第三中学校

〒352-0015 新座市池田 1-1-1

TEL (048) 479-4052 FAX 482-0133

## You'll never find a rainbow if you're looking down. 校長 石田 和男

学校総合体育大会朝霞地区大会が終わりました。全ての種目を見に行くことはできませんでしたが、試合終了まで全力で頑張る三中の皆さんをこっそり応援していました。勝敗は時の運であり、勝ち負けに決着がつくのは必然であり、仕方のないことです。しかし、勝敗以前に大切なのは、ここまで力一杯精一杯日々の練習を積み重ねてきた過程にあることを忘れないでください。県大会に出場する3年生は、残された日々を悔いのないよう練習に打ち込んでください。それ例外の部活動は、いよいよ2年生がリーダーとなります。新チームでの活躍を期待しています。



そして、来週は期末テストです。当日まで、コツコツ勉強にも打ち込んでください。

さて、今月は「座右の銘」について話します。少し早いですが、3年生は、高校入試で面接がある学校もあります。その面接で、「あなたの座右の銘は何ですか。」と聞かれるかもしれませんね。では、「座右の銘」とは何でしょうか。それは、常に自分の近くにおいて、戒めとする言葉のことです。「自分が大事にしている言葉」と思ってもらっていいでしょう。

「座右の銘」と聞くと、私が若いころの先輩教員の言葉を思い出します。それは、「人間万事塞翁が馬」という言葉です。（「にんげん」を「じんかん」と読む場合もあります。ここでは、人という意味ではなく、世の中というような意味になります。）意味は、「人の世の禍（不幸）や福（幸福）は予測できないものだ。」というものです。もとになった話は、中国の故事なので、故事成語の一つです。その故事はこのような話です。「塞翁という老人の馬が逃げた（不幸）、その馬が優れた別の馬を連れて帰ってきた（幸せ）、その馬に乗っていた老人の息子が落馬して足を折った（不幸）、そのおかげで兵隊に行かずに済み命が助かった（幸せ）」だと。

この言葉には、様々な解釈があるようですが、先輩教員は私に次のように話してくれました。「不幸や幸福は予測できるものではない。悪いことだと思っても、それはきっと良いことにつながるはず。だから常に前向きに頑張るんだ。」つまり、つらいことや嫌なことがあっても、決してくよくよせず、前を向いていこう、という自分をポジティブにするための座右の銘なのだ。つらいことや嫌なことは、もちろんない方がいいですが、全くない人などいないでしょう。そんな時に、皆さんには、いつまでも下を向いて、くよくよして欲しくはありません。「下を向いていたら、虹を見つけられないよ」これは、イギリスの喜劇役者チャップリンの言葉です。私の好きな言葉の一つです。前を向いて、前進し続ける人であり続けましょう。1学期も残り少なくなってきました。健康管理をしっかりとしつつ、1学期をしっかりとしめくくりましょう。

### 7月16日(火)5校時、「ネットモラル教室」を全学級で実施します。

インターネット、スマートフォン、SNS等によるネットトラブルは後を絶ちません。本校の生徒間でも実際に起きている問題です。夏休みを控えたこの時期に、それらの活用法について確認し家庭で話し合う一助としていただければと存じます。せつかくの機会ですので、保護者の皆様も、ご都合のつく方は是非ご参観をお願いします。